

# 漁況海況予報事業\*

## 概要

田中 嘉治・竹内 淳一・中地 良樹・武田 保幸  
檜山 晃晴・調査船「わかやま」藤井 一人他6名

## 目 的

本県沿岸および同沖合の海況と漁況をモニタリングして、海況と漁況に関する調査研究を行う。同時にこれらの情報を漁業関係者に報告して漁業経営の合理化に資する。

## 方 法

平成5年度漁況海況予報事業実施方針（水産庁）による。

## 結 果

和歌山県漁海況情報（第101～第112報，毎月）ならびに沖合黒潮調査速報（1993.No. 4～12、1994.No. 4～1）にすべて速報した。特徴的な海況と漁況の概要は以下のとおりである。

### 1 海 況

黒潮：黒潮流路は、'93年3月上旬小蛇行の潮岬通過後4～6月上旬まで九州東岸～潮岬にかけて概ね接岸を持続した。6月上旬には屋久島でやや離岸となり、下旬後半まで室戸岬以西域で離岸傾向を示した。7月以降は、8月中旬に一時九州東岸～足摺岬で離岸したが、概ね接岸を持続した。'93年10月後半に都井岬沖で小蛇行が形成され九州東岸でやや離岸したが、足摺岬～潮岬では接岸を持続した。11月には都井岬沖での小蛇行は消滅し九州東岸で接岸、足摺岬～室戸岬でやや離岸、潮岬で接岸となり、12月前半までこの状態を持続した。12月後半以降は九州東岸～潮岬で概ね接岸基調で経過し、小蛇行の東進は不明瞭であるが、12月下旬後半～1月上旬前半に潮岬沖を通過した。潮岬沖の黒潮は、6月後半～7月上旬にはやや離岸したものの概ね接岸傾向で経過し、10月以降潮岬南10～25海里を持続した。特に'93年1～2月は極めて接岸し、黒潮北縁擾乱の通過とみられる周期的な変動があった。

黒潮流路は4月中旬までB型、4月下旬から10月後半はC型基調、11月以降は概ねN型基調であった。

沿岸水温：紀伊水道外域の5月のやや低め、7～8月のかなり低めは、黒潮北側の中層顕著湧昇がかかったためである。10月以降の紀伊水道内部では12月～'93年1月は高め、他の月はやや高めで経過した。これは黒潮の接岸と暖冬による影響と推察される。

紀伊水道外域及び紀南域では全般的にやや高め～高めで経過し、潮岬周辺域でも「高め～かなり高め」となり、特に1月は記録的な高水温であった。暖水波及のあった1月13日の潮岬沿岸2～10海里の200mで17～18℃台、江須崎沿岸2～10海里の200mで18～19℃台を観測した。この暖水波及は紀伊水道入口まで達した。

熊野灘南部では5～6月はやや低め、7月は低めで経過した。その後、10月は30～50mでやや低め、200m層で高め、11～12月は100～200mでやや低め～平年並み、2月は100～200mで高めであり、12月以降の0～50mは全般的に平年並みであった。1月に紀伊水道側でみられた暖水波及は熊野灘側へは

\* 漁海況予報事業費による。「平成5年度漁況海況予報事業結果報告書」として既報。

進入しなかった。また、沿岸域の北上暖水舌は11月下旬～12月上旬と2月下旬～3月上旬に形成された。

## 2 漁 況

内海マダイ：加太のマダイは、'91年に過去最高であった'81年とほぼ同等の99 tを漁獲した。しかし、従来の黒潮接岸時に不漁、離岸時に好漁の漁獲パターンは崩れ'93年は67 tに過ぎない。ただ'93年12月における12 tの漁獲は過去に例を見ない好漁となった。

内海マダコ：加太のマダコは、'86年の123 tをピークに減少を続け'89年には54 tとなった。その後'91年には一時91 tまで回復したが、'92年には60 t台まで再び落ち込んだ。しかし、'93年は83 tで'86年のピーク時の70%弱に留まった。

サワラ：'85年の漁獲量を最高に減少傾向をたどり'91年には100 tまで減少した。その後も回復の兆候は見られず、'93年は129 tの漁獲量であった。漁獲の内訳は、釣りで76%、定置網で14%であった。

タチウオ：7年ぶりに6,000 t台まで回復した。本県漁獲量の80%を占める箕島町漁協の小型底曳網漁業の漁獲状況をみると、'93年は休漁後の2月並びに6月、9月の好漁が目立つ。特に2月は紀伊水道内へ黒潮系水の流入が顕著であったときに全漁獲量の20%を占めた。また、小タチウオは11月に入ってから出現しており、「10月から見られる」という従来の傾向に近づきつつある。

シラス：西脇、箕島町、栖原三漁協の春漁（4～7月）計は、1,091 t（'92；994 t、'91；1,164 t）で前年を上回ってやや好漁となった。要因として、水道内の昇温が遅れ（黒潮の離岸等による）、初漁が4月下旬となり、夏季（6～7月）になっても外域からの補給が続いたこと、マシラスの混獲率が前年より高く、出現も長期に亘ったことが上げられる。また、水道外域の南部町、田辺二漁協でもカタクチシラスが順調な水揚げを続け、'89年以来の好漁であった（2～7月、'93；291 t、'92；169 t、'91；132）。

イカナゴ：'93年冬季のイカナゴ漁は266 tで、かつてない好漁となった'92年漁期（2～3月）の509 t漁獲量を下回った。例年に比べ成長もかなり早かった。

内海マサバ・マルアジ：5月上旬にサワラ曳縄が終漁後、マサバ・マルアジを対象にしたサビキ釣りに漁具転換をする。しかし、漁期を通して両魚種共に1日1隻当たりの漁獲尾数が100尾以上になることがなく、低調に終始した。マサバ主群の移動は、初秋期（9月）に水道外域へ、またマルアジは夏季（8月）に主群が大阪湾、播磨灘へ入り込んだ。

外海アジ・サバ・イワシ類：'93年の1、2そうまき網漁業による総漁獲量は、17,779 t（'92；18,312 t）であった。この減少は黒潮の一時的な離岸あるいは気象等の影響を受け、低温化等の漁場環境の悪化が進んだと推定される。それ故、'92年時のような好漁場は形成されず、夏季から初秋季にかけてのマサバ（2、3才魚）、冬季から初夏のマアジ（1、2才魚）およびカタクチ（1才魚）の漁獲減が目立った。

棒受ウルメ：棒受網によるウルメ（0、1才魚）の漁獲量は1～2年周期で増減する傾向が'83年頃からみられ、増大期には年間1,000 t以上漁獲される（'93；1,082 t）。各漁場共に5月上、中旬に漁期に入り、漁獲のピークは南部町で8月、串本、勝浦では9月であった。また、9月下旬から10月下旬にかけて、各漁場での棒受網漁は終漁した。

サンマ：勝浦を中心としたサンマの水揚げは、棒受網および流し刺網で漁獲されるが、'93年漁期

の棒受網は10月中旬初漁があり、翌年2月中旬に終漁した。刺し網は12月上旬から翌年1月上旬の短期間で操業しするが、両漁業ともに低調であった'92年漁期の40%に留まった（勝浦漁協、'93.12～'94.2;150 t）。

スルメイカ：本県の冬イカ漁は冬生まれ成熟群（漁場は熊野灘）を、夏イカは冬生まれ未成熟群（潮岬西部海域）を対象としている。すさみ周辺域では、'89年頃から夏イカ対象の昼イカ釣りが導入され操業している。近年の釣りによる漁獲比は、夏イカ9に対して冬イカ1程度である。特に今漁期の夏イカの場合、黒潮と陸との間に漁場は形成され低温渦流域が陸棚斜面に向かって収束しながら差し込む機会が多かったことがいえる。

カツオ：'93年漁期前半（2～3月）の曳縄漁場は、潮岬沖50～70海里の黒潮外縁域で5～10kgの中、大型魚が主体となる。適水温域も遠く、また漁場周辺域の海況も不安定であったが、漁獲量も好漁年の'91年並みで出足は好調であった。後半（4～5月）、黒潮の接岸と共に距岸20海里付近が漁場の中心となり、5月下旬には更に漁場は接岸し5海里付近で小型魚（1.5kg）を対象にした操業となり終漁期に入った（田辺、すさみ、串本漁協計'93;1,123 t, '93;1,049 t）。

トンボ（ビンナガマグロ）：'93年漁期（1～4月）は、1月上、中旬から始まり順調な操業を続け好漁年（'92）に匹敵するほどの漁獲量であった。しかし、3月中、下旬頃から魚価低迷のため漁獲努力は、カツオに集中し'92年同期の25%まで下落した。

メジロ：'93年漁期における釣り漁業での漁獲は、各海域共に振るわず短期間の操業で終漁する漁場もあり、特にすさみ町見老津漁場（主に飼付漁場）では、激減した'92年を更に下回る不漁（17 t）となった。

ブリ：'93年ブリ数年度（11～7月）における、宇久井、太地水共の入網尾数は1～4月累計8,500余尾であったが、これは'92年を若干上回る入網であった。最近年では'91年漁期に次ぐもので、宇久井では3月に平均魚体8.0kg/尾、太地水共では2月に8.1kg/尾ものがまとまって入網した。

その他：串本漁協におけるトビウオ流刺網は、241 tを水揚げし'81年に次ぐ好漁となった。

### 3 沖合・沿岸・浅海定線調査報告、海況・漁況情報の発行

#### 1) 沖合・沿岸・浅海定線調査報告

主な配布先 水産庁、水産研究所（南西、中央他）、都道府県水産試験場、気象庁、漁業情報サービスセンター、水路部

発行部数 沖合定線報告 45部  
沿岸・浅海定線報告 55部

南西海区水産研究所外海調査研究部に所定の海洋観測入力様式「POD」にてデータを入力したフロッピーディスクで報告した。

#### 2) 海況・漁況情報の発行

- a) 海況速報 漁業情報サービスセンターからファックス受信した海況速報はすべて、県下関係漁協に直ちにファックス送信。
- b) 人工衛星利用沿岸海況図 サービスセンターから受信後、利用価値のあるものは県下関係漁協にファックス送信。
- c) 南西東海海域海況速報 上記a), b)と同じくファックス送信。

- d) 南西東海海域沿岸漁況情報 適宜業種別広域漁況を関係漁協にファックス送信(2~7月)
- e) 沖合黒潮調査速報 「わかやま」による本県沖合の黒潮とその内側域の漁場海況調査結果速報で関係漁協、関係機関にファックス送信。延12回。
- f) 和歌山県漁海況情報 (第101報~第112報) 和歌山県沿岸沖合を中心とする1ヶ月の海況と漁況及び資源の解説。  
発行回数 月1回、1993年4月~1994年3月  
主な配布先 水産庁、水産研究所(南西・中央)、都道府県水産試験場、県内全漁協、関係協力漁業者、その他関係者。  
発行部数 200部
- g) その他 毎週1回海況、漁況の新聞広報(週間南紀ウィークリー、紀伊民報等)。  
定地水温は毎日、気象協会を通じて広報(和歌山放送)。